

The background of the entire page is a dense, repeating pattern of colorful zigzag lines. These lines, resembling hand-drawn crayon strokes, come in various colors including red, orange, yellow, green, blue, and purple. They are scattered across the page, creating a vibrant and textured effect.

同窓会報メールマガジン

第 25 号

機 巢

岐阜工業高等専門学校 機械工学科 機巢会

岐阜高専機械工学科 機関誌 『機巢』 2022年 NO.25

目次

P-2	目次 & 会長挨拶		
P-3	機巢会 40 周年同窓会の案内		
P-4	機械工学科の現状について	山田 実	(24期生)
P-5	OB 紹介シリーズ 世界で活躍する同窓生	林 幸泰	(11期生)
P-9	長崎物語 新入社員からずっと長崎で	熊田 進	(9期生)
P-11	中国で30年 第2弾	西村 省三	(7期生)
P-13	編集後記		

会長挨拶

飯沼義徳 7期生

朝夕が肌寒くなりとても過ごしやすくなりました。
スポーツ、旅行などに絶好の季節です。全国各地では3年振りの秋祭りがおこなわれています。10月11日には、国内向けに全国旅行支援が始まりました。新型コロナウィルス禍で打撃を受けた地域経済の再建を目指した政府の観光支援策ですが、私たち自身が家族や友人、知人と楽しいひと時を過ごすために有効に活用できればと思います。水際対策も大幅に緩和され、一日当たり5万人の入国制限が撤廃されました。入国制限はほぼコロナ禍前に戻りました。スポーツ観戦、音楽ライブなどの入場料を2割引する



「イベント割」も導入等、新型コロナ感染症で制限を受けてきた私たちの生活も3年ぶりに普通の生活に戻りつつあります。

私はコロナ禍でもゴルフ、山歩きを楽しんでいます。新型コロナ感染症対策をして、新型コロナ感染症を過度に恐れず有意義に過ごしています。

機巢会は、岐阜高専1期生の皆様が中心になって1980年に設立され本年で42年目を迎えました。この場をお借りして、諸先輩のご尽力に心より感謝申し上げます。さて、このような環境の下、1年遅れになりましたが「機巢会40周年同窓会」を開催することにいたしました。多数の会員の皆様のご出席をお願いいたします。

『機巢会 40 周年同窓会』開催のご案内

機巢会は岐阜高専機械工学科のOB会として1980年4月に発足しました。そして、40年の歴史を持つ会になりました。40周年を記念して機巢会同窓会を開催します。

機巢会 40 周年同窓会

日時：2022年11月20日（日） 15時～18時

受付開始は14時30分からです。

場所：岐阜キャスルイン（2F バンケットルーム） 058-262-3339

岐阜市県町2-8 名鉄新岐阜駅徒歩2分

会費：（食事、アルコールを含むフリードリンク代含む）

OB会員 3000円

現役学生 2000円

申し込み：機巢会ホームページ（<https://gifu-nct.com/>）からお願いします。

詳細は機巢会ホームページに掲載しています。

コロナで各学年の同窓会も開催できない状況が続きましたが、同窓会の灯を絶やさないためにも多くのOBの皆様に参加をお待ちしております。

（同時に同窓会を企画する学年もあるようです）

式次第

1. 特別講演 「トヨタグループが発展した理由」
講師：豊田通商（株）元副社長 浅野 幹雄 氏
2. 会長挨拶
3. 来賓祝辞
4. 叙勲受章（瑞宝小綬章）紹介
橋浦正史名誉教授
5. 機巢会功労者様に感謝状贈呈
6. 乾杯
7. 歓談 テーブルごとに自己紹介・近況報告など
8. 役員紹介、活動報告、連絡事項

18:00 に閉会

機械工学科の現状について

機械工学科 山田実

10月22日(土)、23日に高専祭が開催されました。3年ぶりに一般公開され、盛況の内に終わりました。恒例の専門展では機械工学科4年生は蒸気機関をテーマに展示や作品を作りました(右上の写真)。ニューコメン、ワットによる蒸気機関の歴史から始まり、模型による蒸気機関の仕組み、自転車・メリーゴーラウンドを蒸気機関で動かす実演、蒸気機関の未来などについて来場者に分かりやすく説明していました。その結果、一般来場者賞を頂くことができました。圧縮空気を使って蒸気機関を動かす動態展示物の製作では、空気漏れのトラブルなどで調整に非常に時間がかかり、公開直前まで作業をしていました(右下の写真)。



その他に今年の高専祭で始めて行われたのは部活やクラスのバザーの代わりにキッチンカーによる飲食物の提供、ストリートピアノ、3年生が学科を越えたグループを作り社会問題をはじめ様々な問題解決法を提案しポスターで発表する協同教育発表会がありました。

10月1日付けで岸田真幸先生が着任されました。挨拶の文章をいただきましたので、下記に掲載します。

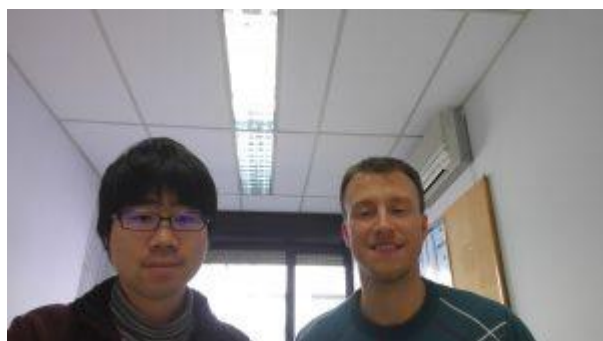
【新任職員からのご挨拶】

2022年10月に機械工学科の助教として着任した岸田真幸と申します。私は2012年度に岐阜高専機械工学科へ入学した0Bであり、大学・大学院に進学し、母校である岐阜高専に教員として戻ってきました。現在は、専攻科生の実験科目を担当しており、ANSYSやSolidworksなどを使い教えております。

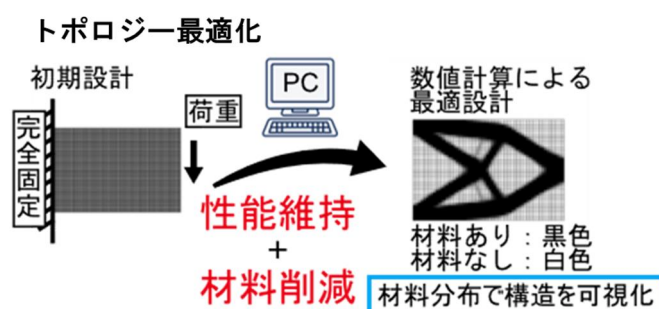
高専在学時は、ロボット研究会に所属し設計を担当しておりました。また、部長を務め全国大会出場を経験しました。高専では高専ロボコンや専門展、先生方の授業を通して加工技術と設計技術を学びました。大学在学時は、メキシコで日本語工学教育の講師や生産ラインの見直し業務などを行い、スペインのカタルーニャ工科大学で研究留学を経験するなど、様々な経験をさせていただきました。

研究テーマは『概念設計支援のための最適設計システムの開発』です。近年では軽量化や安全性が重要になってきていることから、設計者や開発者に対して多くの経験や知識が必要とされており、大きな負担となっています。この負担に対して、数学や工学の理論から設計の初期段階である概念設計の提案をし、サポートすることを目指し研究をしています。私の研究室では、多くの製品を対象とすることができるため、学生自身の興味とマッチした研究ができるように努めていきたいです。

先人の卒業生・先生方が積み重ねてきた岐阜高専の良さを尊重しながら、学生たちが自由に楽しくものづくりに専念できるような環境を作れるように精進して参りたいと思います。



カタルーニャ工科大学 Prof. Joan との写真



研究紹介

OB紹介シリーズ

世界で活躍する同窓生

大里研究所 理事長 林 幸泰 （11 期生）

これまでに何人かの起業家、跡継ぎなど会社経営に携わる卒業生を本シリーズで紹介してきた。しかし今回紹介する方は、このような人が大野町にいらっしゃったのかと思うくらいマルチな才能を発揮して、世界的視野で多角的に事業に取り組んでおられる機械工学科 11 期生の林幸泰さん。

いつものように本シリーズに登場してくれるOBを探していたところ、筆者勤務先の社員（この社員も 22 期生のOB）が、「協力工場で、上水道管の粉体塗装をやっている林製作所の社長が高専の機械科卒業生のはずだ。」と教えてくれた。早速、卒業年次を調べたところ 11 期生だったので旧知の先輩に紹介を頼み、アポイントメントを頂いた後、会社を訪問した。しかし、訪問先に指定されたのは林製作所ではなく、林さんが理事長を務める「大里研究所」という研究機関だった。予防医学により高齢化社会における医療費削減を目指し、様々な活動を行なっているという。

いままでのOB紹介では、起業あるいは事業承継までの道のりや苦労話、高専時代の思い出などを語っていただくが、林さんのビジネス範囲、専門があまりにもグローバルで大きすぎて、筆者の平凡な頭では理解できないレベルだった。

なお、このような方なので、既に専門雑誌などでいくつか紹介されていることも分かったため、今回は林さんの活躍の様子は写真紹介とする。



大里研究所の理事長室にて高専や留学のこと、林製作所のこと、グローバルに展開しておられる事業のことなどを伺った。

<元々の家業：林製作所>



林さんの元々の家業である林製作所。鋳鉄製上水道異形管の粉体塗装をてがける。

<大里研究所>



現在のビジネスの中心、FPP（パパイヤ発酵食品）を研究する大里研究所。研究施設、各界の専門家をお迎えするロビー、音楽ホールなどを備える。

<クラシックカー>



出典: ENGINE Nov.2022, No.260

雑誌 ENGINE に掲載された FPP の広告。Immun' Age (イミュナージュ) というブランド名で販売されている。広告に使われているクラシックカーは林さんの愛車 1933 年製のアストン・マーティン。

<ローマ教皇に謁見>



出典: ORI レポート No.8

2015 年、ローマ教皇フランシスコに謁見し、予防医学の重要性を直接お話しするとともに、FPP を献上。FPP は、これまで歴代のローマ教皇 3 人に献上されている。

<大里研究所顧問のリュック・モンタニエ博士がノーベル賞受賞>



出典: ORI レポート No.6

大里研究所顧問のリュック・モンタニエ博士が、2008 年度のノーベル賞（医学・生理学賞）に選ばれ、林さん夫妻はストックホルムでの授賞式に招待を受けた。博士は 1993 年、フランス・パリのユネスコ本部に世界エイズ研究予防財団を設立し、林さんは博士の要請で 1998 年に財団の日本事務所をスタートさせ、エイズ予防啓蒙活動に注力している。



<PTSD を抱える英国軍人を支援>



出典:ENGINE May 2019, No.224

FPP を通じて、PTSD（心的外傷後ストレス障害）を抱える英国軍人を支援。

林さんはパトロンとして陸・海・空全ての軍人、OB が参加するラグビーチームを作り、イミュナージュ・カップを開催した。

<英王族との交流>



出典:ENGINE Mar. 2019 No.222

エリザベス女王の従弟であるマイケル・オブ・ケント王子が、クルマを通じて交流のあった林さんを軽井沢に訪ねた。王子がパトロンを務めている英国の歴史あるクラシックカーのイベント「コンクール・オブ・エレガンス」において、大里研究所がオフィシャルスポンサーとなり、コンクール主催のラリーや晩餐会にて親交を深めたのが縁だとか。

<各界の著名人との交流 in 軽井沢>



出典:軽井沢 Vignette2022 Vol.131

林さんにとっては軽井沢の別荘での気の置けない友人たちとの家族ぐるみの交流によって得られた知識も全て予防医学に帰結するのかもしれない。左から、篠崎史紀さん（NHK コンサートマスター）、明石康さん（元国連事務次長）、林さん。

<大野町の休耕地と化した柿畑をブドウ畑に>



出典:ENGINE Nov. 2022 No.260

2012 年、大野町からの相談を受け、農家の高齢化により休耕地と化した柿畑を有効利用し、Bio ワイン作りを目指してピノ・ノワールとシャルドネを栽培する Project ORI WINE をスタートした。ここでは、リタイアした地元シニアの方々が、社会との接点を持ち、生き甲斐をもって農作業に参加できる場を作ること、認知症予防など超高齢社会への対応を試みている。

＜大里研究所の yma ホールにて＞



大里研究所には、各界の専門家たちをもてなす迎賓館の役目もある。

写真は、研究施設に併設された yma ホールにあるベーゼンドルファー、林さんと筆者。チャリティー・コンサートや海外からのゲストのための歓迎演奏会などのイベントも開催されている。

－ 林さんのビジネス、活動のキーワード

（取材中および参考にいただいた専門雑誌などを通して述べられている理念などを紹介）

予防医学による医療費削減を目指し3つの活動を柱とし超高齢社会の抱える問題解決に取り組む

- 1) 発酵食品の研究による健康寿命延伸への寄与
FPP の研究を進め、世界に向けて研究成果およびメディカルフードとしての可能性を発信している。
- 2) 教育が最大の予防
地元、大野町を中心に、小中学校の児童・生徒を対象にした AIDS 予防のための啓発教育活動を継続して実施。近年は学校からの依頼を受け、感染症予防教育・環境教育にも力を入れている。
- 3) シニア世代の生き甲斐作り
地元、大野町の休耕柿畑を有効利用してワイン用のブドウを栽培、シニア世代の生き甲斐作りと健康維持を目指している。

－ 是非とも、後輩に一言を！

高専には 2 つのタイプの学生が入学する。1 つは理数系に強いタイプ。もう一つは実家が製造業などをやっていて跡継ぎとなるタイプ。私は後者だったので、本当に高専 5 年間、勉強が他の同級生より大変でした。しかし、在学中はクラブ活動に熱中し、何事にも忍耐力がつく経験になったと思う。

－ 編集委員からの予告

林さんの長男、大里 裕幸さん（平成 13M）も岐阜高専機械工学科卒業後、信州大学経済学部に入部。現在では家業を継ぎながら信州大学特任教授を務め、大垣共立銀行や伊豆箱根鉄道のコンサルタント業務を行っているという。いつの号か、この OB 紹介シリーズに登場していただこうと思っている。

－ 取材を終えて

この OB 紹介シリーズは筆者のこだわりで、平凡なサラリーマンやエンジニアではなく、業界問わず起業家（企業家）を紹介したいと思って取材を続けてきた。今風に言えば、ダイバーシティ（多様性）というのであろうか。高専は、今までの機械、電気、土木（環境都市）、建築、化学だけでなく、経営工学というのがコースとしてあっていいのかもしれない。専攻科ではそれらしい科目が一部あるとは聞かすがどうだろうか。豊橋技術科学大学では、経済学を中心にいくつかカリキュラムがあったが、一般教養の選択科目レベルであった。そもそも、一芸に秀でた学生を育てないから高専、国立大学が進化しないのではないかと考えている。

今回紹介した林さんは、高専卒業後、米国のウィティア大学（カリフォルニア州で 2 番目に古い私学）に留学してビジネスマネジメント学を修得し、今ではウィティア大学理事を務め、予防医学の分野を中心にグローバルに活躍しておられる。あらためてダイバーシティというものを考えさせられた取材であった。

（文責：15 期生 中尾）

長崎物語

新入社員からずっと長崎で

熊田進（9期生）

1976年の就職活動は、前年のオイルショックから前例のない不況で厳しい状況だった。毎年入社している企業からも、不採用の連絡が続いていた。そんな中、三菱電機の採用試験を勧められた。試験の手ごたえはなかったが、内定通知をもらった。しばらくして 配属は長崎製作所との連絡があり、家族一同驚いた。
長崎ってどこよ！

学校からは、「2、3年もしたら名古屋に戻してくれるよ。」と。就活は続けたくないし、進学のもりもないので入社を決めた。

大会社に就職することが、人生の1つの目的であった時代のことである。しかし、2～3年どころか、三重に戻るまで30年近く長崎で暮らすこととなった。

～西の果て～

入社式は伊丹で、そのまま1か月ほどの集合研修が行われた。研修が終わると、実家で赴任準備をして長崎へ向かった。

長崎行き寝台特急さくらは 岐阜駅を4時ごろ発だった。両親は見送りにホームまで来ていた。さくらは2段ベッドだったろうか。列車の騒音とアナウンスで朝は早く起きてしまい、それからが長かった。諫早を出ると長いトンネルに入る。出ると浦上駅。山と海ばかりの車窓から一変、港町独特の雰囲気になる。到着は11時に近かった。駅のホームは行き止まりでレールは切れて反り返り、その先は50mも行けば海にでる。

今年、西九州新幹線が開業、リニューアルした駅は日本で唯一海が見えるホームだそうだ。



長崎駅のレール

～先輩～

長崎製作所にはわが校の先輩はいなかったが、毎年二人位の高専生が採用されていた。地元九州の佐世保、久留米、北九州、鹿児島高専が多かったが、網走から来たという先輩もいた。その人は本間さんといい鹿児島の浜田さんと同期で3年先輩。この二人の先輩に独身寮に入寮すると待ち構えていたように剣道部の稽古に連れられて行かれた。でも毎週、稽古の後は飲んで騒いで楽しかった。三菱系列の三菱重工の剣道部とも知り合いができた。四段をとり子供を教えるようになったが、練習中に怪我をさせたので辞めてしまった。

～名所～

浜の町から思案橋をわたり、しばらく歩くと福砂屋本店に突き当たる。お香がたかれ落ち着いた店内は伝統を感じる。この一角が長崎一番の歓楽街「丸山」で、卓袱料理を食べさせる料亭も残っている。幕末の志士たちが飲みかわし、日本の将来を語り合ったところだ。竜馬がつけた刀傷の料亭花月もここにある。

司馬遼太郎「竜馬がゆく」で長崎舞台の活躍を身近で感じることができる。亀山社中は駅正面の風頭山中腹にある。頂上付近まで家が立ち並び、石の階段を登り、横はすれ違えるほどの細道、自動車は入れない。したがって猫が多い。ここからは長崎の街が一望できる。港を出入りする船を眺め、夜は仲間たちと丸山に出かけたのだろう。山を下り中島川沿いに石橋群を眺めながら観光通りを抜け丸山に着く。私はこの道を散策するのが好きだった。

～ちゃんぽん～

長崎のスープはとんこつだ。たまには食べたい醤油味の店は、思案橋にある「よこはま」一店しか知らない。四海楼はちゃんぽん発祥の店として有名だ。大浦天主堂、グラバー邸入り口にある丸ビルが店舗になっている。観光地にあるので値段は高めである。私のお気に入りには浦上にある「宝来軒」。妻の実家近くでたびたび利用していた。ちゃんぽん以外の料理もいける。市街地から離れているけど、ぜひ行ってみる価値がありお勧めだ。隠れた名店で私のお勧めは会社の食堂だ。社員しか利用できないが、ちゃんぽんを狙って出張に来るファン也大勢いたようだ。



宝来軒

～温泉～

長崎の温泉といえば雲仙が有名だ。地獄の周りに旅館が立ち並んでいる。避暑地としてひらけてきており、テニスコートはクレ-6面、ハード4面、パブリックのゴルフ場18ホール、ショートコース9ホールが隣接している。硬式テニス部は毎年1泊2日の夏合宿をしており、テニスと温泉と宴会の一大イベントだった。

雲仙に行くときには食べるべきお約束が2つある。千々和観光センターのじゃがちゃん、島原半島に入るとじゃがいも畑が広がっている。蒸したいものを油で揚げたおやつだ。もう一つは湯せんべいの耳、焼いたときにはみ出したバリのこと。年配の夫婦が手焼きしていた店でやまするめというんだよ、と教えてくれた。そのご夫婦はもう引退しただろうな。

第2弾をお楽しみに！！！！

中国で30年（第2弾） 青島で工場建設

西村省三（7期生）

今回は、自分の中国駐在時代の思い出から生活面を紹介しましたが、今回は私の「失敗談」をお届けします。出来る事なら当時の写真を添付できると良いのですが、アナログ写真は既に断捨離してしまい文章のみになる事をご容赦下さい。約30年前の中国（青島）における話です。

当時の中国と日本の大まかな比較は下記の通りです。

	国のGDP 億ドル		一人当たりGDP ドル		自動車生産 千台	
	中国	日本	中国	日本	中国	日本
1990年	3,965	31,965	346	25,895	509	13,486
2000年	12,655	49,684	951	39,172	2,069	10,140
2010年	60,338	57,590	4,499	45,135	18,264	9,628
2020年	148,625	50,316	10,525	39,981	25,225	8,067

1. ネッカチーフの泥棒隊（盗られる方が悪い？）

工場建設を開始した時の事です。日本から各種の特殊工具も持ち込んで設備の据え付けを進める中、昼休みに工具を現場にそのままにしていると、工場の垣根を乗り越えてネッカチーフの女性（少数民族）が工場内へ入り込み、工場内の鉄物（工具も含む）を持って行ってしまいました。同じ様な事が続くので、ある日見張りの従業員がレンガの欠片を一人の泥棒にぶつけて追い払った所、午後から公安（警察）が来て、レンガを投げた従業員を逮捕して行きました。何方が正しいのか？当時の日本人会では、「鍵をかけずに放置してある物は、捨ててある物と判断される」と申し合わせて注意しました。

2. 海岸の露店で会社のヘルメットを販売（盗人を捕らえてみれば）

現地の会社で立ち上げて行く際に、現地の従業員を採用し日本から持ち込んだヘルメットや安全靴を支給して開始しましたが、支給した翌日家に忘れたとの事で再度支給したりしていました。あるとき、周りの日系企業の方から、「お宅のヘルメットが海岸の露店で売られていましたよ」との情報が届きました。それまで中国には無かったようなヘルメット（当時現地では竹で作った物が一般的）だった事が要因ですが、日本では考えられないことでしたので現地製の物を使用するか考えさせられました。

3. 工場への電源確保に77本の電柱（自腹の電力供給？）

工場では7トンの電気炉を設置する計画になっており、電力確保が課題でした。使用される電力も当開発区では最大になり電力供給側からクレームが届きました。移転（既に基礎工事も完了時）を指示され、当地の行政府トップ（市長）へ談判に出向きました。当時中国は大きく変わって行く変換点にあり、それが現実として受け止める以外に無い事が分かったので、移転はしない代わりに7km先の大きな変電所から77本の電柱を立てて工場まで当社が負担して電気を確保する事になりました。市長は、開発区・電力供給・我が社が費用を分担して実施する事で許可されました。私は、毎日自転車で工事を見に行き、設置される電柱の数を数える毎日でした。後日、色々な会社が進出して来ましたが、我々が立てた電柱から分岐（タコ足）して電源を引き込んでいました。77本の電柱は専用回線と聞いていたはずですが、やはり我々が最初の「種」になったようです。

4. アパートの電球破裂（当面電球は消耗品？）

基本的に電力供給能力が遅れている地域では、電圧の変動が激しく大きなフリッカー現象が起こります。また、その様な地域で調達可能な照明は「裸電球」が殆どで、電圧変動が発生してくると明るさに変化が現れ、最終的には真っ赤になって破裂することから電球から離れないととんでもない事になってしまいます。我々のアパートには蛍光灯も設置されていましたが、同じく破裂しました。近くのある街の話では、ある会社が操業を開始するために設備電源をONした時にその街全体の照明が消えてしまったとの事です。

5. 麦の刈り取りと工場建設日程表（将来の事は分からない？）

我々は、日本の親会社から何月何日までに工場を完成させるという目標を持って赴任し、その工程表を作成して建設業者とも打合せを行い進めて行きましたが、順調に進んでいた工事がある日突然、現場の作業者の数が激減し工事が大幅に遅れていきました。どうしてか分からず色々確認して行くと、この時期は主食である「麦の刈り取り」があり、作業者の殆どが農民であることから自宅に戻ったとの事でした。これは「この地域の常識ですよ」といわれ唖然としました。契約した業者にはクレームを申し入れても何ともならず、何のための工程表なのかと悩んでしまいました。これらの事で本社に対して始末書を3回も書きました。当時の会話ですが、工程表に対して、「日本人はどうして将来の事が明確に表すことが出来るのか？」「先の事は分からない」と言われたものです。

6. パスポートの署名（英語と漢字）

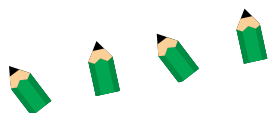
現地へ赴任すると、当然生活費を日本から送金してもらい、現地の銀行に口座を開設して日本円を現地通貨に換金して生活費として使用する事になります。銀行で引き出すときの身分証明書は外国人の場合はパスポートになります。パスポートには、自分の物として証明する「自筆の署名：サイン」がありますが、小生は英文筆記体のサインでした。ある時口座の解約を行おうとしましたが、サインの確認が銀行窓口では出来ませんでした。漢字の国なので、漢字登録なら問題なかったのですが、結局は当地の領事館へ出向き、パスポートの持ち主が本人である事の証明書（日本で言えば公証人役場の業務）を有料で入手してようやく解約が出来た次第です。その後、パスポートの更新時に漢字に変更しました。

7. オーストラリアを地図上で示せない通訳（優秀な人材確保）

現地で業務を進めるにはどうしても通訳は必要です。その様な場合には、現地の学校へ出向き優秀な人材を紹介してもらい採用する事になります。中国では8級（日本語1級取得）が最優秀の人材です。色々人によって異なる事も事実ですが、当時の人材には、確かに日本語検定には合格した人材ですが、一般教養に関しては並行して勉強しておらず、タイトルの様に地図上でオーストラリアが分からなかったという事です。この様な事もあるという事です。

上記は、私の勤めていた会社（新東工業）が中国の青島市に進出した1990年当時、市内ではまだ馬車が走っていた時代の話です。今後の日本企業がどうしていくのか、人件費が高騰してしまった中国を断念して次に向かう国は、ミャンマーなのかインドなのか、アフリカなのか？いずれにしても工場建設がなされる地域には、同じような状況があると思って赴任した方が良いと思い紹介させていただいた次第です。





編集後記

編集委員

6M 太田哲也



今回の記事を編集していて思ったことですが、20歳で同じように卒業しても皆さんいろんな人生を歩んでこられたのを感じています。就職先や勤務先によって人生が左右されるのを痛感しました。岐阜から一度も離れたことのない人生を送った私は幸せだったと思っています。世界中を飛び回るのが夢でしたが、それも人生ですね。

9M 若井征伯



9月27日にコロナに感染してしまいました。38度の熱が3日間続き、結構大変でした。9月20日から25日までインドネシアに行っていましたので、そこでもらったようです。コロナを甘く見てはいけない、これが今回の教訓です。

9M 熊田 進



若いころを過ごした長崎を思い出しながら“長崎物語”を書かせてもらいました。15年以上たっているので今と違うところもあると思いますが、旅行の際の参考になれば幸いです。全国旅行支援も始まりました。

15M 中尾賢治



土日の区別なく仕事に明け暮れていますが、何の進展がないまま晩秋を迎えました。時間が経つのが加速的に早くなり、すぐに正月が来ると感じる年代です。

24M 山田 実



久しぶりの高専祭外部公開。地元の方も楽しみにしていたようで、今年の開催はどうなるのと言う声をいくつか聞きました。コロナの新規感染者数は相変わらず多いですが、球技大会、修学旅行など以前の学校行事も次第に元に戻ってきた感じです。

52M 小林 光希



3年ぶりの外部公開ありの高専祭に行ってきました。自分らが作り上げてきた高専祭とはまた違った演出があって楽しめました。1番変わったのはキッチンカーの存在ですね。縛りやルールの中で上手く活動している様子から後輩たちの頑張りを感しました。

編集委員 募集 !

機関紙作成の協力していただける方を募集しています。原稿の校正、記事の構成が主な作業です。発行前に打合せをします。主にメールで作業しています。

興味のある方は太田までメールください。 tetsuya-ota@core-cprp.jp

発行日／2022年11月1日

責任者／飯沼義徳

発行／岐阜工業高等専門学校機械工学科同窓会「機巢会」編集室
〒501-0495 岐阜県本巣市上真桑2236番地2

TEL 058-320-1343

FAX 058-320-1349

<http://gifu-nct.com/>